雷山小学校

豊かな地域交流と、地域で生きる力を学ぶ雷山の子どもたち

文

校区名由来の雷山が南に控える雷山小学校。校区には、約1,300年の歴史を誇り紅葉の名所でもある「雷山千如寺大悲王院」や、日本最大の銅鏡「内行花文鏡」が出土した平原遺跡があり、悠久の歴史や文化が息づいています。

約230人の児童が通う雷山小学校は、比較的人数が少なく、学年を超えて子どもも先生も顔見知り。皆が口をそろえて「雷山小の給食が一番おいしい」と話す給食は、広々としたランチルームに全児童が集まって一緒に食べます。地域ぐるみの交流が盛んで、校区合同で運動会や雷山文化まつり、学校外の行事では7泊8日の通学キャンプが行われています。コミュニティ・スクールの活動では、登下校時の見守りを行う「らいざん見守り隊」やシニアクラブの雷寿会をはじめとした地域の人々が協力的です。また地元の自然や食の豊かさを生かした米や野菜、豆腐作りなどは、子どもたちが達成感を味わうとともに、ふるさとのよさに気付くきっかけになっています。

6月19日は、全児童が雷山空襲について学びます。昭和20年6月19日に旧雷山村に焼夷弾が投下された悲劇を風化させず、次の世代へ語り継ごうと毎年続けられている授業です。子どもたちは、実話を元にした紙芝居『いのちをかえして』や絵本『ぼくの村にB29がきた』、また雷山空襲の語り部からの話を通じて、戦争の恐ろしさを知り、被災した人々の思いに触れています。6年生は、空襲の跡をたどるフィールドワークも行い、平和について考えつつ、身近な場所で起こった過去の出来事を自分の肌で感じる経験もしています。

通学キャンプ１日目のしゃべり場では、世代を超えた交流が行われた

フィールドワークで雷山空襲の跡をたどる